

三重とこわか国体鳥羽市実行委員会 設立趣意書

国民体育大会は戦後の荒廃と混乱の中で、スポーツを通じて国民に勇気と希望を与えようと、昭和21年に第1回大会が開催され、以来我が国最大のスポーツの祭典として、国民の健康増進と体力向上、そして豊かで活力ある地域づくりに大きく寄与してまいりました。

三重県においては、昭和50年に第30回大会「三重国体」が開催され、鳥羽市においてもフェンシング競技と相撲競技が開催されるなど、その後のスポーツの普及・発展や地域づくりの礎となりました。

平成30年7月18日、公益財団法人 日本スポーツ協会から平成33年に二巡目となる三重県開催の決定を受け、これにより鳥羽市では正式競技のフェンシング競技の開催が決定されました。

このことは、鳥羽市の多彩な魅力を全国に発信する絶好の機会であると同時に、全国アスリートのプレーを身近に触れるとともに、郷土選手の活躍によって郷土に誇りを持ち、スポーツを通じた地域づくりに一層の拍車がかかり、健康で活力に満ちた、魅力ある鳥羽市の発展につながるものであります。

大会を成功に導くために、市民一人ひとりの英知と情熱を結集して、おもてなしの心で本市の恵まれた自然や歴史・地域資源を全国に発信し「真珠のようにきらり輝く鳥羽」に相応しい実りのある大会になるよう、市民・関係団体・行政の協働による「三重とこわか国体鳥羽市実行委員会」を設立するものであります。

平成30年11月26日

鳥羽市長 中村 欣一郎